



Contents

- 年頭所感p01
- 卒業生を講師に迎えてp05
- 高等学校英語弁論大会p07
- 村上記念病院 市民公開講座p04
- 成績優秀者表彰p06
- 全日本学生選手権を制覇p08



「建学の精神」の具現化に強い決意を表明

2010年を迎えるにあたり、宮田侑理事長から新年の挨拶とともに、朝日大学の今年の基本方針が述べられた。「建学の精神」の具現化に全職員一致して邁進しようというもので、地道にこれを進めていくことが「魅力ある大学、選ばれる大学」づくりの根幹であるとしている。

「建学の精神」の継承者の育成

理事長年頭所感

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

2009年は、わが国にとってまさに「CHANGE」の年でありました。真夏に行われた総選挙において、ついに自由民主党から民主党へと政権交代が現実のものとなりました。

一方で、米国のサブプライムローン問題に端を発した世界同時不況は、わが国経済に大きな影響を与え、未だデフレという負のスパイラルから脱出はできないでいます。

しかし、このような情勢下にあっても、未来からの挑戦を受け続ける我々は、一刻たりとも「教育」をおろそかにすることはできません。未来を切り開く若者に対し、夢と希望を与え、輝ける未来

社会の実現力を付与することこそ高等教育を担う大学の崇高な使命と考えております。

本学は、学士課程教育の質の向上のため、受験生に対するアドミッション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの周知を図るだけでなく、ディプロマ・ポリシーの明確化による出口管理の強化をはかってまいります。これらの点については、昨年受審した認証評価においても本学の基本方針として明確に主張いたしました。厳格な学生成績評価を行うとともに教員の教育力の向上のため、また、教育支援を行う職員の資質向上のため、FD及びSD活動の一層の推進に努め、全職員一丸となって、学生の輝ける未来を信じ、その実現のために努力してま

いります。

本学卒業生が、建学の精神の継承者として未来社会で活躍することが、本学が真に「選ばれる大学」になる道であると考えております。

18歳人口の減少により、大学をとりまく環境はますます厳しさを増しています。本学では、このような時代の変革とニーズに対応できるよう文系学部の学部学科再編を進める予定です。

本学の建学の精神に謳う、「国際未来社会を切り開く社会性と創造性、そして人類普遍の人間の知性に富む人材を育成」することこそが、今こそ、人類の喫緊の課題であることを信じ、着実に具現化していかなければなりません。

本年も皆様のご支援、ご協力



理事長 宮田 侑

をどうぞよろしくお願い申し上げます。

FD [faculty development]
教員の教育能力を高めるための実践的手法

SD [staff development]
職員の意識改革、能力開発の実践的手法

Happy New Year!

大学の見える化:「質保証から質向上」へ

新年あけましておめでとうございます。

ここに謹んで新年のお喜びを申し上げますと共に、本年も皆様方にとりまして素晴らしい年となりますよう心からお祈り申し上げます。

全世界が同時金融危機からいまだ脱却できず、我が国では国民本位の新政権樹立を歓迎するもデフレスパイラルという悪循環に陥り、また、米国がデフレ阻止のために超低金利政策を継続することのドル・キャリートレードの拡大など、国内外の政策に左右され、国内の景気回復が息切れしないか懸念されます。

しかし、朝日大学におきましては、いつの時代でも、そしてこのような混沌とした時代におきましても、私たちの行く先を常に照らし導き続ける道しるべ(指標)があります。それは、

「国際未来社会を切り開く社会性と創造性、そして、人類普遍の人間の知性に富む人間の育成」という「建学の精神」であります。本学教職員一人ひとりがこの「建学の精神」の具現化に向け、それぞれが自己刷新に努め、地域社会、国際未来社会に貢献しうる「有為な人材(人材)」の育成に丸となって取り組んでまいります。

また、歯学部を設置されております3つの医療機関におきましては、歯科医学の教育・研究の場としての責務を果たすと共に、地域社会の皆様方の健康を守りかつ信頼される医療機関としての役割を担っていく所存であります。

一方、近年めざましい活躍を遂げております本学「体育会」におきましては、2年後の「ぎふ清流国体」を成功裏に導くため、さらなる競技力向上を

はかると共に、将来にわたり「文武両道」を旨としスポーツ活動を通じた「人間教育」に力を注ぎ、学生たちが国際未来社会の「宝」となるよう、指導充実に努めてまいります。

「教育・研究の質保証から質向上」をめざし「魅力ある大学、選ばれる大学」づくりを推進する朝日大学では、どんな学生に入学してほしいか?といったアドミッション・ポリシー、どんな教育を提供するのか?といったカリキュラム・ポリシー、そしてどのレベルの達成をもって卒業認定すなわち学位授与とするか?といったディプロマ・ポリシーを学内外に明確にすることで、大学教育の可視化(見える化)に努めてまいります。

恵まれたロケーション、充実した教育・研究や医療体制、どこよりも誇れる優秀なスタッフ、



学長 大友 克之

そして何よりも光かがやく学生など「朝日ブランド」にさらなる磨きをかけ、様々な集いやメディア等を通じて、ご父兄、同窓生、そして地域社会の皆様方へ、「朝日大学の魅力」を分かりやすくかつ積極的に発信してまいります。

皆様方におかれましては引き続き理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

教育者としての意識変革



副学長 森下 伊三男

新年あけましておめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申し上げます。

一昨年来の世界経済の混乱、自然界での異変、そして身

近なところでは就職氷河期の再来など、暗い話題の多い昨今ですが、本年は皆様にとってより良い年となりますことをお祈りいたします。

さて昨年、本学では(財)日本高等教育評価機構による認証評価(第三者評価)を受審し、私自身、一教員として教育・研究、大学の管理運営、地域貢献等の各軸にいかにか寄与していくべきかを改めて考えさせられる年でありました。外に向けては、県内外の高等学校との交流、経済同友会などを通

じた企業や岐阜県との関わりなど、「高大連携や産学官連携」における大学としての役割を再認識いたしました。また、学内にあっては、教員の意識改革、特に、教員一人ひとりの意識の持ちようについて、その重要性和課題をあらためて感じました。

最近では、学生の多様化、特にさまざまな側面を切り口とする属性の多様化が顕著となっております。これに対し、教職員は「教育者としてのプロ意識」を持ち、学科・科目の

教育にとどまらず、「建学の精神を具現化した人材となり得る学生に育てる」という意識を持ち続ける必要があるものと考えております。「人」として大きく成長した学生を実社会に送り出すことは朝日大学の重要な使命の一つであり、「魅力ある大学、選ばれる大学」の第一歩であろうと思います。

朝日大学の益々の発展をめざし、皆様の協力のもと、より一層の努力をしていく所存です。本年もどうぞよろしく願いいたします。

未来からの挑戦を受けて

明けましておめでとうございます。さわやかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

今、われわれ人類は未曾有の混乱と混沌の真只中におかれています。予想を上回る地球温暖化、果てしなく続く民族・宗教対立、そして人類社会の根底を覆す経済金融パラダイムの崩壊とこれに伴う国家間・地域間格差拡大など、未来に向けて解決しなければならぬ様々な問題が山積してい

ます。

過去、人類は未来から幾多の挑戦を突きつけられてきました。そしてその都度、人類は英知をふり絞ってこれを克服してきました。

しかし現在、人類が抱える様々な問題は、過去とは比較にならないほど大きく根深いものであり、その解決には、優れた英知と不断の努力、そして長い時間が必要であることは間違いありません。そして、これを担うことができるのは、

まさに若き有意な人材なのです。

本学は「国際社会を切り開く社会性と創造性、そして人類普遍の人間の知性に富む人材の育成」を建学の精神に掲げています。

本学全教職員は、建学以来脈々と受け継いできたこの建学の精神こそが、現今の時代的要請であると強く自負し、「未来からの挑戦に、敢然と立ち向かえることができる若き人材育成」という崇高な使命



副学長 赤石 健司

達成に向かって、力強く歩んでまいりましょう。明るい未来を信じて。

歯学部 to 思うこと



副学長 竹内 宏

本来なら、「謹賀新年、明けましておめでとうございます」と申し上げ、「今年もまた頑張ってやっていきましょう」といった類の挨拶を申し上げるべきですが、立て続いて起っている世界的な何とかショックに加えて、我が国にはデフレスパイラルの兆しまでもが見え始め、また、視点を大

学に向ければ、これまた18歳人口の激減という現況下では、新年を手放しで目出たがる気分にはちょっとなれないのでは無いでしょうか。

しかも、かかる内憂外患の状況に、朝日大学も最早、無関係ではなくなっているのがさらに気になる所です。今回は、年頭の挨拶としては相応しくはないことを詫言いまして、私も所属しております歯学部について、若干の辛口の言を述べさせていただきます。

さて、歯学部は、朝日大学の屋台骨と謳われ続けてきました。しかし、やはり全国的な受験生の減少を受けて、これまでのように泰然自若としていられない状況に陥りつつあります。この現況に対して、何ら

かの有効性のある方針を打ち出さなければ、開学以来の誇るべき伝統は壊滅しかねないと危惧するのは誰しもと思わればかりであります。

それでは、改善策を講じるとすれば如何なる方策が有効なのかということになると、現時点では、千差万別でありましょう。これでは、舟は目的とする方向には進みません。いわゆる船頭多くして舟山に登るといことになります。

もう何年も前から、建学の精神に則りつつ、魅力ある特化された選ばれる大学をめざそうという基本方針が打ち出されて久しいですが、我々は、ここでこの概念が歯学部の教育、研究、臨床の3部門でどれくらい反映されているのかを再考する必要があるのではな

いでしょうか。この点について、教育にのみの絞って見ましても、単にカリキュラムを変更し6年間一貫教育を標榜しても、一貫した教育が本当に行われているのか、学生が興味を持ち、モチベーションがアップするカリキュラムと講義内容になっているのか、最終的に本学部の現在の教育方針が国家試験に、また将来あるべき歯科医師の学識に対応しているのか等々が案じられるところでもあります。

かかる問題点について、舟が山に登らないように、学部全体が検証・真摯な反省・新たな方策を確立し、新年に相応しい新たな出発を行い、今年こそ、再び、「魅力ある選ばれる朝日大学歯学部」としてはありませんか。

謹 賀 新 年

法学部長
(兼) 法学研究科長
杉島 正秋

経営学部長
(兼) 経営学研究科長
奥山 徹

歯学部長
(兼) 歯学研究科長
田村 康夫

附属病院長
倉知 正和

附属村上記念病院長
安藤 隆

PDI岐阜歯科診療所長
藤原 周

事務局長
菱田 健治

Cooperation

おなかの癌にならないために 村上記念病院市民公開講座

2009年11月21日(土)JR岐阜駅前前のじゅうろくプラザで、本学歯学部附属村上記念病院主催の市民公開講座が、岐阜県医師会、岐阜市医師会、岐阜新聞、岐阜放送の後援により開催された。

同講座は「おなかの癌にな

らないために ～見直そう、あなたの生活習慣～」をメインテーマに、副病院長の加藤隆弘教授(消化器内科)と総合健診センター長の小島孝雄教授(消化器内科)がそれぞれ座長となり、4つテーマについて講演が行われた。

- ◆ピロリ菌と胃癌
講師(消化器内科) **福田 信宏**
- ◆大腸ポリープと大腸癌
医師(消化器内科) **堀江 秀樹**

- ◆ウイルス肝炎と肝臓癌
医師(消化器内科) **橋本 宏明**
- ◆生活習慣と消化器癌
講師(消化器内科) **大洞 昭博**

各演者からは、胃や大腸、そして肝臓における癌の原因や、生活習慣と消化器癌との関わりなどについて治療と予防の側面から受講者にも分かりやすく解説がなされた。

健康への関心の高さ

今回の公開講座への関心は非常に高く、開催1カ月以上も前に申込受付を締め切ったほどで、当日は200名近い受講者で会場は満席。癌にならないために生活習慣を見直そうと、真剣なまなざしでメモをとる姿、質疑応答が数多く寄せ

られるなど大変意義深い公開講座となった。

附属村上記念病院では、今後も公開講座の充実をはかり積極的な情報発信に努めると共に、地域社会の皆様方の健康を守り、かつ、信頼される医療機関としての役割を担って行くこととなる。



受講者は生活習慣の改善を改めて認識した

岐阜県産業教育振興会商業教育部会(会長:中部化成薬品(株)社長の瀬川隆彦氏)の進路研修会が、2009年11月20日(金)に穂積キャンパスで開催された。

この研修会は、商業教育部会の会員である高等学校校長や進路指導担当者らが、県内の事業所での研修・見学を通じ今後

の商業教育の在り方や生徒の進路指導に役立てようと開催されている研修会。今回の研修会では、3つのテーマについて講演が行われた。

- ◆新学習指導要領について
岐阜県教育委員会
学校支援課課長補佐 **正村 達也 氏**
- ◆今後の雇用動向を
素早く察知するためには
朝日大学
経営学部教授 **田中 征夫**
- ◆スポーツトレーニングについて
朝日大学
経営学部助教 **林 卓史**

講演後には、朝日大学や歯科衛生士専門学校の教育体制、就職支援、スポーツ活動の特色などが紹介され、参加した高校



瀬川会長から開会挨拶

教員たちは高校教育・生徒指導の参考になればと熱心に説明に聞き入っていた。

卒業生が近況を報告

学食体験を兼ねた昼食・意見交換会では、高等学校や大学における生徒・学生指導の在り方などについて活発な情報交換が行われると共に、本学へと進学した学生たちが高校時代の恩師に笑顔で近況などを報告。参加教員たちからは卒業

「高大連携」を深める 進路研修会を開催



本学在生も加わった昼食・意見交換会

生の成長ぶりに安堵した様子が見えられた。

「高校・大学の連携」を深めることとなった本学での開催は、参加者にとって有益な進路研修会となったようだ。

裁判員裁判の法廷技術を磨く 日本弁護士連合会主催のワークショップ

穂積キャンパス6号館で、2009年11月14・15日の両日にわたり日本弁護士連合会主催の「裁判員裁判のための法廷技術ワークショップ」が開催された。

本ワークショップは、法廷弁護技術の集中トレーニングを行うことにより、裁判員裁判の弁護を担い、かつ、各弁護士会における法廷弁護技術研修



の中心となる指導者を養成することを目的に全国10地区で開催されている。東海地区で

は、岐阜県弁護士会と学術交流協定を締結している朝日大学とが連携しワークショップの開催となった。

法廷弁護技術の向上

岐阜、愛知、三重県から約50名が参加したワークショップでは、各県の弁護士が弁論や尋問の技術、冒頭陳述や最終弁論の手法について今後の裁判員制度や弁護士活動に役立てようと真摯に学んでいた。参加者たちは、事前配付さ

れた事件記録に基づき尋問や弁論を展開(実演)、その様子はビデオに撮影され、別室では講師から映像を確認しつつ個別講評を受けていた。



個別ワークショップで法廷技術を高める

卒業生を講師に迎えて

産業情報研究所で研修会

「再資源化の風をとらえた中小企業」をテーマとする産業情報研究所の研究会が、(株)川合木工所取締役の川合洋輔氏(2001年3月経営学部卒業)を講師に迎え、2009年11月13日(金)に開催された。

本学卒業後、実父の経営する会社に入社し自己の職務を通じて新規事業の可能性を模索してきた川合氏は、本業である木材加工の結果生じる廃物で焼却処理されていた「おがくず」が酪農家用資材や石

油の代替燃料等として市場に認められる資源となることに着目、酪農家に「おが粉」を卸す業者との売買契約を成立させた。

全く想定されない異業種分野との取引成立に至った経緯とともに、自身の事業に対するこれまでの経験、そして今後への思いについて熱く語られた。

ビジネスチャンスを生かせ

講演の後、活発な議論が行

JR岐阜駅の「ハートフルスクエア-G」において2009年11月19日(木)・26日(木)の両日、「公開講演会」が本学大学院経営学研究科の主催により開



多くのサラリーマンが公開講演会を受講

催された。

同講演会は、大学院経営学研究科の教員が日々取り組んでいる研究テーマの研究結果を社会・産業界に広く発信し、地域貢献を果たすことを目的としている。

講演会の会場となったハートフルスクエア-G研修室には、仕事を終えたサラリーマンを中心に多数の社会人が集い、自身の会社での業務遂行に役



川合洋輔氏を迎え開催された研修会

われ、環境変化により廃棄物(おがくず)が資源となった「ビジネス・チャンス」をさらに発

展させるための様々なアイデアが提案され、卒業生と本学との一体感が醸成された研究会となった。

経営学研究科の研究結果発信 岐阜市内で公開講演会

立つノウハウがないかと、熱心にメモをとりつつ真剣な表情で講演に聴き入っていた。

積極的な情報発信

- ◆ 実践「品質管理」と「トヨタ生産方式」
國澤 英雄 教授(生産管理分野)
- ◆ 岐阜県における杞柳産業の衰退
荻久保 嘉章 教授(中小企業分野)

今回の公開講演会では、2つのテーマが取り上げられ、担当した教員たちは、講演会終了後、受講者からの質問・相談等に丁寧に対応していた。

今後も、地域社会・産業界への貢献の一翼を担う大学院経営学研究科からの「情報発信」に期待が寄せられる。

三重県農水商工部と 連携協定を締結

朝日大学マーケティング研究所と三重県農水商工部との間で、産業振興の分野において連携協力し、地域活性化に寄与することを目的とした連携活動に関する協定が締結された。

これまで、三重県においては、鈴木博道マーケティング研究所所長(経営学部教授)が「みえベンチャーアドバイザーボード委員」、「(財)三重県産業支援センターあり方懇談会委員」などを務めており、今回の協定締結を機に、すでに、(財)三重県産業支援セン

ターが支援するベンチャー企業への経営相談、事業評価、マーケティング研究所が運営するモニターネットワークを利用した商品評価調査など、具体的な連携活動が始まっている。

産学官の連携深まる

今後は、本学マーケティング研究所の「教育・研究資源」の提供、企業等からの経営相談、人材教育支援、受託調査・研究や、共同研究などが、より活発に展開されることになる。

海津明誠高等学校 オープンスクールを開講

岐阜県立海津明誠高等学校情報処理科の2年生を対象に、オープンスクールが穂積キャンパス内の講義室で開講された。

緊張の面持ちで受講

生徒たちは、中畑千弘教授(経営学部)から、「顧客満足の構造とサービスイノベーション」、「最新版販マーケティングとインターネットビジネス」の2テーマについて講義を受けた。大学での講義(授業)は初めてという生徒が多かったが、緊張しつつも講義を楽しんで

いたのが印象的であった。

授業を終えた生徒たちは、本学紹介のDVDを視聴したり、大学案内などの資料を見ながら、大学の施設設備や学生生活について説明を受け、「1日大学生」を体験し帰路に着いた。



大学で参加型講義に耳を傾ける高校生たち

Event

他の学生の「模範」となれ

成績優秀者表彰式

「2009年度基礎教育科目成績優秀者表彰式」が、2009年11月11日(水)に穂積キャンパス5号館講義室で行われた。

この表彰式は、1年生を対象に「社会と生活基礎、英語基礎、情報処理基礎」の3科目(前学期の必修科目)において優秀

な成績を修めた学生が表彰を受ける制度で、新入生たちの学習意欲の向上につながっている。本年度の表彰対象者は、最優秀賞11名、優秀賞33名であった。

リーダーシップを発揮

表彰式では、大友克之学長から「みなさんは他の模範となるべき学生としての品格を身につけ、学業成績だけではなく、リーダーシップの発揮できる人材になってください。」との挨拶が述べられ、出席した教職員からは拍手のエールが送られた。



大友学長から成績優秀者を表彰

功労者知事表彰を受章

本学の竹内宏副学長(歯学部教授)が、2009年11月25日(水)にホテルグランヴェール岐山(岐阜市)で開催された「第12回岐阜県私学振興大会」において、「私立学校教育功労

者知事表彰」を受章した。今回の受章は、多年にわたり教員として歯学教育に従事し、私学の振興及び発展に寄与したことが認められ、その功績を称え表彰されたものである。



知事表彰を受ける竹内副学長

「税法の特別講義」開催

税を考える週間

法学部では、粟津明博教授がコーディネーターとなり2009年11月18日(水)に名古屋国税局課税第一部次長の鈴木久市氏を講師に迎え、「IT化・国際化

と税」と題した特別講義を穂積キャンパス5号館講義室で開催した。

この講義は、国税庁(国税局)の「税を考える週間(11月11日~17日)」の広報活動の一環として行われたもので、本学での開催は2回目となる。

講師は所得税行政のベテラン職員、はじめに生活に関連した身近な税(所得税、消費税、自動車税など)についてクイズ

形式の質問をまじえながら、また、自身の職務経験を踏まえ国税局や税務署の仕事について具体的な説明がなされ、講義が展開された。

税への関心が高まる

続いて、「IT化・国際化」の流れを受けた「インターネットオークションによる滞納処分」や「FX取引による脱税への対応」等について、課税実務の責任者の立場から具体例を示しながら解説。受講した約50名の学生たちは、初めて聞く税金の

話題に興味深く熱心に聞き入っていた。

「子供手当の創設」をめぐる来年度大幅な所得税制の改正が検討されている中、税への関心が一層深まる特別講義となった。

なお、今回コーディネーターを務めた粟津教授は、国税庁税務大学校副校長の経歴を有する税法のエキスパートで、大学院法学研究科でも教鞭をとっている。

FX取引 「外国為替」を「証拠金」を使って売買する投資方法



特別講義で「税法行政」を学んだ

歯学部教育懇談会

全学年で三者面談

本学歯学部では、学生、父母及び大学の三者が共通の理解と認識をもち「将来の歯科医師」をめざし歯学教育に取り組むため、毎年「教育懇談会、三者面談」を実施している。今回は、歯学部1年~5年生を対象(6年生は前学期に実施)に、穂積キャンパス6号館大講義室で2009年11月7日(土)・8

日(日)の両日に開催された。

教育懇談会では、大友克之学長から朝日大学の建学の精神並びに歯学部の教育目標について、田村康夫歯学部長からは、歯科医師国家試験に向けた本学歯学部の教育制度、学生個人を中心とした教育指導体制や学生生活の支援体制等について説明がそれぞれなさ

れた。出席した父母たちは熱心に耳を傾けていた。

懇談会終了後には、歯学部教育後援会主催の「懇談会」が催され、参加者たちが昼食をとりつつ本学関係者との懇談・懇親を深めていた。

将来の歯科医師をめざして

また、両日の午後からは、会場を8階に移し「三者面談」を実施、それぞれ2名の教員が配置された面談室では、父母と

教員とが学生を交え、これまでの学習成果と今後の取り組み等について個別懇談を行い「将来の歯科医師への道のり」を三者で確認しあった。



田村歯学部長から本学歯学部の教育制度が語られる

International Relations

英語で「思い」を主張 第25回 高等学校英語弁論大会

「第25回朝日大学高等学校英語弁論大会」(後援:岐阜県教育委員会、瑞穂市、岐阜市、中日新聞、NHK岐阜放送局)が、2009年11月7日(土)に穂積キャンパス5号館講義室で開催された。

今大会へは、県内外の数多くの高校生から応募があり、厳正なる一次審査を通過した岐阜、愛知、福岡、沖縄ほか各県から19名の生徒が出場、ゼスチャーを交えたスピーチなど

流暢な英語を披露。発表者のレベルの高さに審査員からも驚きの声が聞こえた。

スピーチ能力はレベルアップ

弁論大会の審査は、発音やアクセントだけではなく、スピーチ内容や表現力等が総合的に評価され、その結果、「A Secret Of Happiness」を発表した坂本知里さん(阿久比高等学校:愛知県)が「最優秀賞」の栄冠に輝いた。

岐阜歯科大学から朝日大学となった1985年からスタートした本弁論大会の、第1回大会から運営に携わる吉田定宏名

誉教授は、25年間を振り返り「年々、高校生のレベルがアップしている。」と笑顔で語った。



受賞者たちが笑顔で記念撮影



小松氏による講演「通訳と英語学習」

朝日大学の建学の精神に謳う「国際未来社会を切り開く社会性と創造性、そして人類普遍の人間の知性に富む人間の育成」の理念のもと、中学校や高等学校をはじめとし英語教育に携わる関係者との連携

をはかり、教育手法の向上及び英語教育のさらなる発展をめざす、「英語教育研究セミナー」が2009年11月7日(土)に穂積キャンパス5号館講義室で開催された。

活発な質疑応答

本セミナーは、「朝日大学高等学校英語弁論大会25周年」を記念し開催した催事。大友克之学長からの開会挨拶後、外部講師による講演が行われ、約150名の参加者たちは真剣なまなざしで聞き入っていた。

英語教育研究セミナーを開催 英語弁論大会25周年を記念して

講演後には、日頃の英語教育に関する悩み、今後の英語教育のあり方などについて活発な質疑応答が行われた。

セミナー終了後には、会場を5号館ホールに移しウェルカムレセプションを開催。和やかな雰囲気の中で、学内外の参加者による活発な情報・意見交換などが行われた。



吉田定宏名誉教授の乾杯でレセプションが開会

◆通訳と英語学習
園サイマル・インターナショナル顧問
明海大学名誉教授

小松達也氏

◆我が国の英語教育に思う
明海大学外国語学部英米語学科教授

山岸勝榮氏

国際交流の集い2009 相互理解・親睦を深める

本学の学部・大学院や留学生別科日本語研修課程で学ぶ外国人留学生、教職員らが参加した「朝日大学国際交流の集い2009」が、大垣フォーラムホテル(大垣市内)で2009年11月25日(水)に開催され、会場に集った約200名が相互の

理解・親睦を深めた。

この集いは、本学国際交流委員会が毎年開催している行事。今回も立食による懇親・懇談が行われ、留学生と教職員たちが笑顔で談笑し交流を深めた。また、恒例となったプレゼント抽選会では、当選者が

発表されるごとに大きな歓声があがった。抽選会後には飛び入りで永山元彦准教授(歯学部)による尺八演奏が披露され、会場内の雰囲気をより一層盛り上げていた。

国際交流の架け橋となれ

留学生たちが朝日大学での充実したキャンパスライフを送り、将来、日本との架け橋と

なる人材に育つことを期待する。



ビンゴゲームで商品ゲット

Sports

フェンシング 全日本学生選手権を制覇 女子エペで「二冠達成!」

「2009全日本学生フェンシング選手権」が、2009年11月8日(日)～12日(木)に東京駒沢オリンピック公園競技場で開催され、本学体育会フェンシング部は、女子エペ(個人・団体)で優勝し二冠に輝いた。

女子エペ(個人)に出場の岩田華奈(情報管理3年)は、予選を全勝で勝ち上がった勢いをそのまま決勝トーナメントでも発揮し、同種目では朝日大学で初となるタイトルを獲

得した。また、女子エペ(団体)では、個人優勝の岩田選手がムードメーカーとなり、準々決勝・準決勝・決勝で、強豪チームの日本体育大学、慶應義塾大学、早稲田大学との激戦を制し、同種目で6年ぶり2度目の栄冠に輝いた。大会期間中には大友克之学長も応援に駆けつけた。

体育会フェンシング部の「ロンドンへの道」に向けさらなる活躍・飛躍がはじまる。



女子エペ(個人・団体)で栄冠に輝いた選手たち

「新潟国体」で上位入賞者表彰 2年後の「ぎふ清流国体」に弾み

「ときめき新潟国体(第64回国民体育大会)」で上位入賞を果たした岐阜県勢の選手をたたえる表彰式が、2009年11月27日(金)に岐阜県庁で行われた。

本学の体育会からは、競技別「天皇杯」7位入賞の自転車競技で本学自転車競技部の山崎好弘監督が、また、同競技「4km団体追抜き競走」で準優勝を果たした井関太一(ビジネス企画4年)・横関裕樹(同3年)が、岐阜県体育協会の田口義嘉壽会長から表彰を



県体協の田口会長から表彰を受ける

受けた。

朝日大学体育会では、自転車競技を含む9つのクラブが強化指定を受けており、2年後の「ぎふ清流国体」に向けさらなる競技力の向上がはかれることとなる。

プロ選手と少年野球教室 朝日大学野球場で開催

朝日大学野球場及び屋内練習場で、2009年12月5日(土)に少年野球教室(軟式)が開催され地元の小学生ら約100名が参加。岐阜県立岐阜商業高校出身の中日ドラゴンズ和田浩一選手らが手本を示しながら打撃技術や練習方法を指導した。

今回の野球教室は、スポーツビズが主催する野球教室に和田選手がふるさとへの恩返しとして参加したもので、岐阜県野球協議会(理事長:後藤寿彦氏)と本学の協力で開催

された。

当日は、あいにくの雨模様となったが、参加した小学生たちはプロ野球選手からのアドバイスを熱心に聞き練習に取り組んでいた。

この中から未来の甲子園球児・プロ野球選手が誕生することを期待する。



整列し元気な挨拶で野球教室がスタート

ラグビー

2009東海学生ラグビーフットボールリーグ 4位(Aリーグ)
9月27日(日)～11月22日(日) 名古屋瑞穂競技場ほか

柔道(女子)

第2回東海学生女子柔道冬季優勝大会(団体戦) 初優勝
11月28日(土) 愛知県武道館

バレーボール

第107回岐阜県大学バレーボール秋季大会 優勝
11月8日(日) 朝日大学サンライズジムほか

第62回秩父宮賜杯バレーボール大学選手権大会 初のベスト8
11月30日(月)～12月6日(日) 東京体育館ほか

ホッケー

第58回全日本学生ホッケー選手権大会 初のベスト4
10月21日(水)～25日(日) 奈良県天理市親里ホッケー場ほか

自転車競技

第12回全日本自転車競技選手権大会
4kmTP 優勝・1kmTT 3位入賞
10月17日(土)・18日(日) 山梨県境川自転車競技場

第15回日韓対抗学生自転車競技大会
4kmTP 準優勝・4kmIP 準優勝
11月2日(月) 韓国全州市

2009全日本チーム対抗自転車競技大会
4kmTP 優勝・チームSP 優勝・1kmTT 優勝
11月3日(火) 静岡県日本CSC